

第6回JR北海道再生推進会議 議事概要

1. 日 時 平成27年3月16日（月） 10時34分～14時12分

2. 場 所 JR北海道 本社 8階会議室

3. 出席者

(1) 議長・委員 宮原耕治議長、桶谷治委員、上浦正樹委員、國廣正委員
高橋はるみ委員、高向巖委員、向殿政男委員
吉見宏委員

(2) オブザーバー 国土交通省 武藤浩国土交通審議官、藤田耕三鉄道局長

(3) JR北海道 須田征男会長、島田修社長、西野史尚副社長
小山俊幸常務、山口力常務
綿貫泰之総務部長、田畑正信鉄道事業本部副本部長
瀧本峰男総合企画本部副本部長、
伊勢勝巳鉄道事業本部副本部長、森雅裕安全推進部長
戸川達雄企画室長、土島一幸駅業務部長
難波寿雄車両部長、土田徳造電気部長

4. 議事概要

(1) 社長冒頭挨拶

議事開始の前に社長の島田より当面のスケジュールについて、「安全投資と修繕に関する5年間の計画については、本日のご議論を踏まえ修正させていただき、平成27年度の事業計画と併せて、今週中に国土交通大臣宛に報告し、その後プレス発表したい。
また、措置を講ずるための計画の進捗状況についてご説明させていただき、頂戴したご意見を踏まえ、今月末までに国土交通大臣宛に報告したい。」との説明があった。

議長により議事が開始した。

(2) 安全投資と修繕に関する5年間の計画について

会社側より、国土交通大臣より受けた事業改善命令及び監督命令を踏まえ、安全確保のために必要な設備投資と修繕を早急に行うための「安全投資と修繕に関する5年間の計画」について資料に基づき説明した。

説明の後、委員より以下のような意見、質問が出された。

- 安全投資・修繕のための資金は国にも支援を仰ぐなどをしてしっかり確保すべきである。
- これだけ多くの修繕費がかかるということは、今後も継続してこれだけの費用が必要だということか。
- 5年計画のその先の収支見通しはどうなっているのか。
- 経営の持続性が必要ではないか。持続可能な経営ができるよう抜本的な経営構造の見直し、選択と集中が必要である。

一部委員から次のような意見があった。

- 計画策定後の災害対応については、必要性や緊急性を勘案しながら、対象事象を入れ替えるなどをして弾力的に対応されたい。また、維持補修を怠り老朽化した施設の整備を自治体に財政負担させることはできない。このことはJRと国、地方の役割分担や地方の財政規律の根本にも関わるものである。これが広域自治体としての基本スタンスであることを理解されたい。

委員からのご意見及びご質問に対して、会社から次のような考え方を説明した。

- 鉄道は、利用者が多い少ないにかかわらず、線区を維持する以上は安全を保つために一定の修繕費が必要である。
- 安全投資と修繕に関する5年間の計画を必ず完遂し、その後も永続的に安全に事業が継続できるよう選択と集中を進め、会社の経営改革を進めていく。

(3) JR北海道再生推進会議の提言書について

当社の問題に対する再生推進会議としての認識、経営幹部の意識改革、安全に対する対策等について、前回に引き続き議論が行われた。

(4) 措置を講ずるための計画の進捗状況について

会社側より「事業改善命令・監督命令による措置を講ずるための計画の進捗状況」について資料に基づき説明した。